

援助は現金優先 連

捜索犬は不向き 国

阪神大震災で報告書

【ジュネーブのロイター通信】国連人道問題局は九日、阪神大震災の現地調査に基づき、援助は現金を優先するべきで、援助を受け入れる側もあらかじめ受け入れの範囲を絞り、不要のものはむしろ断るべきだとする報告書をまとめた。

阪神大震災には各国から救援チームのほか、医療品、食料品など多様な救援物資が寄せられたが、報告書は毛布やビニールシート、水のペットボトルやカップめんが活躍した一方で、無駄になった物資も多いと指摘。初期の救援のあり方として①援助候補リストをあらかじめ作成しておいて被援助先の要望を聞く②被災地で使い慣れている汎用（はんよう）品を送る③現金が一番望ましい——などという。――

捜索犬もスミス、フランク、英国から派遣されたが、十三遺体の発見にとどまったと指摘。日本は地理的に派遣に時間がかかる上、これらの捜索犬は雪山やビルの爆破現場の訓練は受けていたが、今回の木造家屋の倒壊現場には不向きだったという。